

## □ ■タイの天災が産業に及ぼす影響 ■ □

こんにちは。島根ビジネスサポートオフィスの八木です。

旧制第5高等学校（現 熊本大学）教師の夏目漱石に英語を習った、物理学者兼防災学者の寺田寅彦（1878—1935年）は、「天災は忘れたころにやってくる」と唱えました。最近では、タイでも日本でも、天災は忘れる頃ではなく、忘れる前に、まだ記憶が残る内に、規模は異なりますが毎年やって来ます。

今回は、タイにおける天災についてお話いたします。

## 【タイで起こる自然災害について】

以下の表は、1900年以降タイで起きた天災（自然災害）を、被害額が大きいものから10並べたものになります。天災の中でも、洪水、低気圧、干ばつによる被害が圧倒的に多いのがわかります。

位	災害	期日	推定被害額(億ドル)
1	洪水	2011年9-10月	40.00
2	洪水	1993年11/27	12.61
3	地震	2004年12/26	10.00
4	低気圧	1989年11/3	4.52
5	干ばつ	2005年1月	4.20
6	洪水	1993年12月	4.01
7	洪水	1978年8月	4.00
8	洪水	1984年1/19	4.00
9	洪水	2010年10/10	3.32
10	洪水	1993年10/31	3.19

\* Centre for Research on the Epidemiology of Disasters (CRED)による。

2021年9月

タイでは地震も起こりますが稀であり、有感のものはさらに珍しく、揺れを感じないほど規模の小さい地震が多く発生しています。従って、津波が起こることもほとんどなく、記憶に残るのは2004年インドネシア スマトラ沖に発生した地震による津波くらいです。この地震はマグニチュード9.1と非常に規模が大きかっただけに、それにより起こった津波は、観光地として有名なプーケット島などのタイ南部6県を襲い大きな被害をもたらしました。第一次被害の死者はタイ、マレーシア、バングラデッシュ、インド、スリランカのインド洋、アンダマン海一帯で30万人といわれ、さらに二次被害として感染症が拡大し、その被害は甚大なものとなりました。

### 【タイの気候について】

タイの天災の中で圧倒的に多い洪水の話に入る前に、先ずタイの気候を説明したいと思います。

日本には四季があります。季節の違いによる自然をめでることが出来る良い国です。それでは、タイはどうかというと、雨季と乾季の2つの季節をイメージされる方が多いかと思います。

首都バンコクや南部（マレー半島）、北部（山岳地帯）、東北部（高原地帯）など地域によって時期に少しのずれはありますが、実際には、「熱帯モンスーン（季節風）気候」として、次の3つの季節が存在します。11—3月までが、年間を通して最も過ごしやすい「乾季」、気温が最も高くなる4—5月の「暑季」、そして、雨量が最も高くなる6—10月の「雨季」です。

### 【乾季】

11月中旬頃から雨がほとんど降らなくなり、3月頃までの約5ヶ月間は乾季となります。一年で最も過ごしやすく、晴天が続き空気も比較的乾燥しています。それだけに、PM2.5による大気汚染の影響を最も季節でもあります。タイの有名なビーチリゾートであるプーケットなどは、この乾季がハイシーズンとなります。

### 【暑季】

4月と5月の2ヶ月が一年で最も暑く、日中は40℃近くまで気温が上がることがあります。タイの旧正月である「ソンクラン（水かけ祭り）」が行われるのも一年で最も暑いこの時期です。ソンクランは、お釈迦様の生誕をお祝いする、所謂「花まつり」に合わせ、正月休みを取らせ、身体を休ませ、健康を保つ為の行事＝祭事でもあります。朝晩を通して蒸し暑く、屋内にいても一日中冷房が必要になる時期です。屋外で過ごすには蒸し暑さが非常に不快で、人によっては少し外を歩いただけで滝のような汗をかきます。

## 【雨季】

6月から10月の5ヶ月間が雨季とされますが、日本の梅雨の時期のように、しとしとずっと雨が降っているわけではありません。基本的には、日に数回1～2時間ほどのスコールが毎日ふります。それ以外の時間帯は、晴れたり曇ったりしています。

## 【タイの台風】

そして台風ですが、以前はタイでは15年に一度発生すると言われていました。しかし、後述の地球温暖化の影響か、近年では、大小の差はあれ、毎年台風が襲来しています。台風は、一般的にはフィリピン沖で発生し、北西に移動しつつ、次第に進路を北寄りに変えて日本などに進みます。ところが、近年中国大陸の高気圧の張り出しにより、北上できないケースが増えています。以前は香港止まりでしたが、最近では北上できないため、ベトナムのダナンを襲来し、そこで止まらずラオス・カンボジアを超えて、熱帯低気圧となり、タイの東北部を襲うケースが多くなりました。結果これが豪雨をもたらし、近年タイで「洪水」を引き起こす原因となっています。

## 【なぜタイで頻繁に洪水が起こるのか】

タイで多発する洪水は、雨季の終わり頃の、9月下旬から10月上旬にかけて頻繁に発生します。南シナ海から上陸した台風、熱帯（温帯）低気圧が大雨を降らせ、北部、中部で大規模な洪水が発生させます。洪水が起きているのはアユタヤ、パトゥムタニ、北部ナコンサワンなどタイの77都県のうち26県です。

被害を受ける地域は、主として伝統的に支流が合流してチャオプラヤー川となる中央平野とマレー半島の南部地域です。



出典：東京大学生産技術研究所

洪水がタイで毎年繰り返される理由はいくつかあります。



バンコク市内の歩道上の防水用土嚢（2021年9月撮影）

### 1) モンスーンによる降雨集中豪雨

9 - 10月に数日間で集中的に降ります。日本には「バケツをひっくり返したような雨」という表現がありますが、まさにその表現に相応しいほどの大雨です。しかし、タイの年間降水量自体は平均1,200mm程度で、熱帯気候に分類される南部でも2,000mm超です。日本の年間平均降雨量が、約1,700mmであることを考えると、なぜタイにそんなに洪水が起こるのか、と思いますが、数日間のみにとまとめて降る集中豪雨が原因となっています。

### 2) チャオプラヤ川の勾配の緩さや下流の流下能力の低さといった河川構造

タイの河川構造が原因で、洪水が長期化しやすい傾向があります。チャオプラヤ川の流域面積は約16万km<sup>2</sup>と関東平野の約10倍の広さであり、かつ下流域の河床勾配（約1/50,000）は日本の河川（利根川の下流域で約1/9,000）と比べて非常に緩いこと、すなわち水はけの悪い地形であることが原因のひとつとなっています。

### 3) 過去浸水したアユタヤ、バンコク周辺の工業団地付近の地形は元々氾濫原となる低湿地帯であること

### 4) 短期間での予想以上の降雨により、貯水容量を超えるダムの上水を得ない放水

多量の降雨により、チャオプラヤ川上流の北西部ターク県のプミボンダムと、北部ウタラディット県のシリキットダムの2大ダムも、10月初旬までに100億トン（総氾濫量の約半分）を貯留できるものの、満水になり、ダムの決壊を危惧して、放水することが多くなってきています。結果としてそれが下流地域の洪水の原因となっています。ダムが、水量の調整機能を果たせなくなっているのです。

### 5) 毎年の降雨量の予想に追いつかない政府の治水灌漑対策 及び排水設備の未整備

2021年9月

因みに、1900年以降最大と言われる、2011年に起こった大洪水は、446人が死亡し230万人が影響を受け、30万ヘクタールの農地を含む600万ヘクタール以上が浸水し、被害総額は1567億バーツ（4,000億円弱）にのぼりました。世界銀行の推計では、自然災害による経済損失額の大きさでは、同じく2011年に発生した東日本大震災、阪神大震災、ハリケーン・カトリーナに次ぐ史上4位と言われています。

こちらの洪水に伴い、以下の、日系企業も入居しているタイ中央部およびバンコク近郊に位置する7箇所の工業団地は、冠水、施設の閉鎖を余儀なくされました。

洪水により一時閉鎖した工業団地の概要

工業団地名	所在県	工場数	従業員数
サハ・ラタナナコン	アユタヤ県	46棟	14,696人
ロジャナ	アユタヤ県	213棟	56,096人
ハイテク	アユタヤ県	143棟	56,887人
バンパイン	アユタヤ県	90棟	155,957人
ファクトリーランド	アユタヤ県	84棟	3,165人
ナワナコン	パトゥムタニ県	227棟	128,311人
バンカディ	パトゥムタニ県	36棟	30,000人
浸水被害にあった工業団地計		839棟	445,112人

出典：タイ工業団地公社作成資料より

[http://www.boi.go.th/upload/content/flood\\_prevention\\_measures\\_19865.pdf](http://www.boi.go.th/upload/content/flood_prevention_measures_19865.pdf)

農業は言うに及ばず、観光業にも、就中製造業にも被害を与え、当時のタイ進出日系企業3,100社中、自動車、同部品、電子部品、HDDを中心とした460社余の企業へ、4000億円相当の生産に影響を及ぼし、同年のタイの成長率を3%前後押し下げ、0.1%にまで鈍化させました。

タイ政府は、今後の洪水防止スキームとして、工業団地の保護のみならず、日系企業の要望に応じてサプライチェーン網全体を含めた重層的な「タイ国治水開発計画」(Thailand's Future Development and water management plans) を打ち出しており、短期・中期・長期に分けたアクションプランを策定し、緊急洪水対策を具体的に講じています。例えば、罹災した工業団地周辺に洪水防止堤防の建設、河川改修、貯水ダム及び放水路の新增設改修などです。

2021年9月

浸水した工業団地に入居する日系企業からは、政府や工業団地公団からの洪水警戒情報の提供が遅く、さらに情報が錯綜していた。それに加えて、情報がタイ語のみであったために、工作機械等の移転や図面・データ等の持ち出しができず、損失を大きくし、復旧を遅らせる原因になったことが報告されました。今は気象・天文観測情報の共有体制や災害情報伝達網の整備の拡充が進みつつあります。

大洪水の6年後、United Nations Development（国連開発プログラム）、Union & Mekong River Commission（メコン河川会議）、Global Environment Facility Royal Netherlands Government（オランダ政府地球環境部）は、タイ北東部のソフーラム川（Songkhram River）下流盆地で気候リスクの脆弱性につき共同で聞き取り調査を実施しました。この地域のみならず、バンコク周辺の洪水被害を受けた隣接地でも、洪水はその程度、頻度共に軽くなってきているとのヒアリング結果が出ているのは頼もしい限りです。

近年は、工業団地に寄っては、軽い冠水が起こることはありますが、ほんの一時的、数時間で水が引き、生産活動及び移動に大きな支障は出ることはありません。

### 【最後に】

タイへの進出に際して、政府の対策もあり、既に洪水に対して過度の懸念は不要です。近年サプライチェーンの拡充を目して、中国企業の進出の勢いには目覚ましいものがあります。時間の問題で日本に追いつき、日本を追い越すのではと個人的に焦りを感じています。

中進国入りしたタイにとり、その中進国からの脱皮には「治水、防災対策の拡充」も肝要です。産業分野の人材育成、産業の付加価値化を見据えた研究開発の能力強化、利便性を高度化できるインフラの整備、エネルギー・環境・気候変動対策とともに「中進国の罫」からの脱却に必要な課題と思われ、その為に持続可能な開発目標（SDGs）の忠実な履行と定期的なチェックを望みたいと思う次第です。

□ ■ タイ企業インタビュー ■ □

～日系企業との取引に関心のあるタイ現地企業をご紹介します～

タイモンコンファスナー株式会社

THAI MONGKOL FASTENERS CO., LTD.



MTEC 東京展示会に出展したピーラ氏とナッタボン氏

1. 御社の業種と企業規模(従業員数など)を教えてください。

「THAI MONGKOLFASTENERS CO., LTD.」はネジやスクリーを製造している会社で、1978年に設立されました。当時、タイ国内でネジやスクリーを製造している会社は少なく、大半の企業は輸入頼り、高い輸入関税を支払わなくてはなりませんでした。そんな中で、ネジやスクリーを製造して市場の需要をサポートするため、弊社を設立しました。その後、国内及び国外でネジやスクリーを安価で製造する競合相手が増え、競争に勝つための他の手段が必要になりました。20年前にはOEMとオーダーメイドの製品の製造を引き受けるようになり、更に10年前からは、自動車業界用の部品を製造するようになりました。現在、弊社製品のうち70～80%は自動車業界のクライアント向けであり、残りの20～30%は建設、電化製品、農業といった産業分野の部品を製造しています。

2021年9月

設立当初は10人しかいなかった従業員も、現在は約120人ほどになりました。サムットプラカーンとチョンブリーに工場があり、近年は、国外のパートナーと協働して複雑な機械加工や熱処理が含まれる事業もサポートしています。その結果、多種多様な製品製造に対応できるようになりました。

### 2. 御社の事業内容及び主要製品について教えてください。

弊社は自動車業界で2次、3次サプライヤーに属し、エンドユーザーはタイ国内に製造拠点をもち、日本やアメリカの自動車メーカーです。クライアントの大半は主に弊社が製造したネジを使用しています。仕事によってはネジのプレス加工も行いますが、旋盤加工の工場を持つクライアントと一緒に仕事を行うことにより、より複雑な工程を含む仕事を請負えるのと同時に、クライアント側も費用、原材料、時間を節約することができます。

弊社の主要製品はクラッチ、緩衝器、サイドミラー、自動車用日よけの軸等、自動車部品に使用されるネジやスクルーです。



タイモンコンファスター株式会社的主要製品①

### 3. 御社の強みを教えてください

弊社の強みは、得意先のコスト削減につながるよう、試行錯誤し、新しい製造方法を柔軟に取り入れることが可能な点です。様々なクライアントに対応できる商品があり、クライアントの要望にあわせて製造方法の調整も可能です。コストを最低限に抑える製造工程の提案もできます。またモンクット王工科大学北バンコク校<sup>1</sup>の教授にアドバイスをもらい、クライアントの要望に合致した製造方法を見出すことができます。

現在、同校の教授と一緒に新しい機械の研究開発を行っており、当機械を弊社工場で試用しています。この機械が100%の能率を発揮できるようになれば、この先、販売できるようになるかもしれません。

※<sup>1</sup> モンクット王工科大学北バンコク校 (KMUTNB) は、1959年に設立されたタイ王国バンコク都のバーンスー区に位置する国立大学です。

#### 4. 事業を運営するにあたり、大事にしている点をお聞かせください。

顧客の要望に最大限かつ的確に応えることです。

#### 5. 技術者への研修はどのように行っていますか。(技術面でのアドバイス、勉強会や講習会)

安全などの規則について従業員に社内講習を行っています。業務については、先輩が後輩を教える方法をとっています。現在、ボルトに関する知識を教えるコースや、欠陥製品を市場に出さないために、従業員に製品評価と分類方法を教えるコースを準備しています。時には外部から講師を招待して従業員のために講演を行なっています。

#### 6. 事業運営における障害はありますか。

初期の頃は、製造におけるノウハウが挑戦となりました。弊社は金型の設計はできないので、日系企業から機械2台と金型を購入しましたが、従業員が機械の使い方がわからない、何度も金型の修正をしなくてはいけないといった問題が生じ、生産の遅れが発生してまいりました。しかし、経験を積んだ後は、タイ国内の業界の中でも比較的早い段階で、ステンレスのネジやスクリューを製造できる会社となりました。その後、競合相手が多くなりましたが、他種製品の製造を増加させて対応しています。

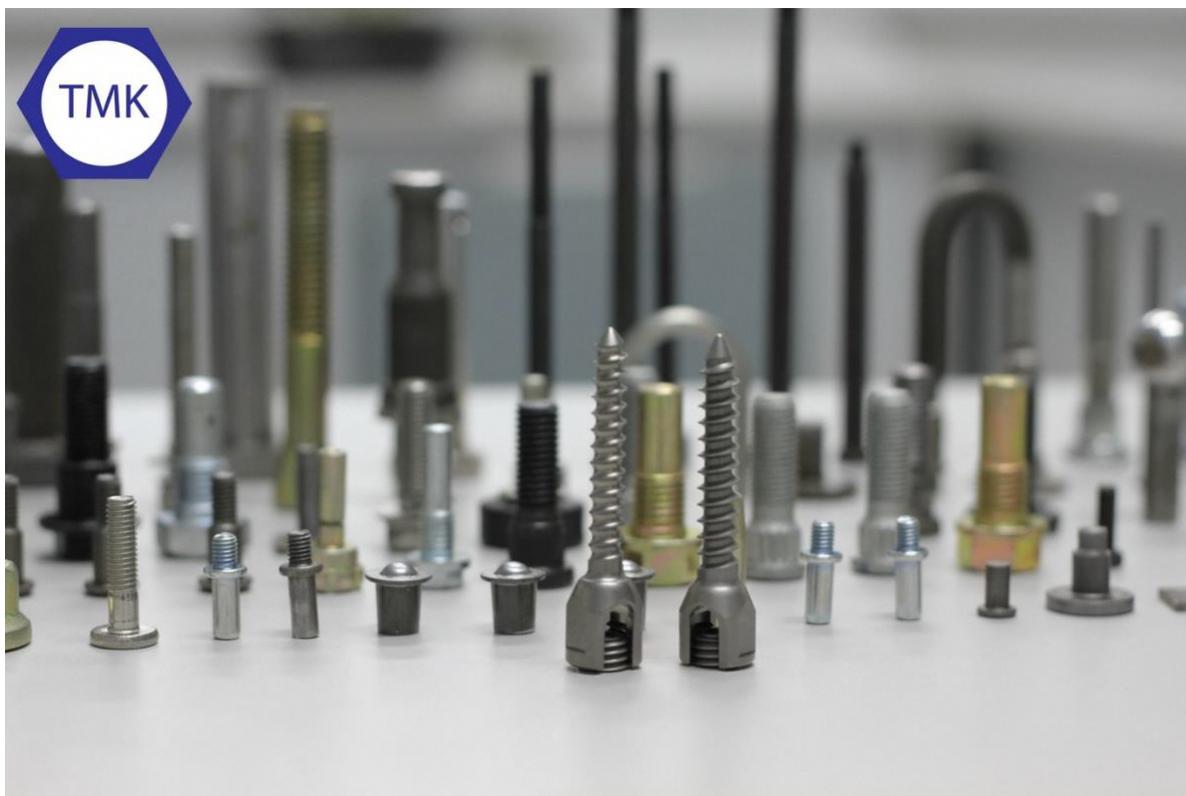
1997年にはアジア通貨危機の影響により、原材料価格の変動という問題に直面しました。その当時は、一般的な産業分野から自動車業界へとクライアントが変わりつつあり、価格管理が難しくなりました。2011年には大洪水が発生し、予測できない需要に対処しなくてはなりません。そして現在は、新型コロナウイルス蔓延という問題に直面しています。従業員を感染リスクから守らなくてはなりません。また自動車工場のラインが停止となりオーダーも減少しています。自動車産業が回復すれば、オーダーも増加すると思いますが、それまでは需要の増減に向き合わなくてはなりません。

#### 7. 海外支店はありますか。今後、海外展開の予定はありますか。

弊社は2つの工場の他に、一般的なボルトやネジといったパーツを販売するため、3つの小売業社を設立し、国内の3箇所で店舗を運営しています。「Soon Thai Jun Import Ltd.,Part.」、次に、より多様な商品を取り扱うため「L.S.T. SUPPLY CO. LTD.」を設立し、最後に「LEE SOON THAI (THAILAND) CO., LTD.」を設立しました。

2021年9月

海外展開の予定は今のところありません。弊社は日本やヨーロッパへ商品の輸出を行っていますが、生産量の1～2%をしめる程度です。この数字は、日系企業とのビジネスにおいて、弊社製品を輸出したり、タイ国内の日系企業クライアントから親会社への製品輸出を依頼されて発生したものです。海外のクライアントの大半は自動車業界や建設業界になります。



タイモンコンファスナー株式会社の主な製品②

### 8. 日系企業の製品やテクノロジーに関心はありますか。もしあれば、どの種類にとりわけ関心がありますか。

製品製造に役立つ機械に関心があります。現在、2、3の日本の機械製造メーカーと商談中ですが、弊社の仕事の性質と合致する機械が見つかりません。加えて、高額な日本の機械に対して、クライアントからのオーダー量が十分ではないため、購入を決断するまでに至っていません。業務のボリュームと合致すれば、日本から追加で機械を購入するかもしれません。以前にローリングマシーンを日本から購入しましたが、業務量も多くないので、機械購入の計画はまだありません。弊社が使用している機械のうち日本の機械は約10～15%で、大部分は台湾の機械を使用しています。

### 9. タイの産業、とりわけ製造業の現状についてご意見をお聞かせください。

タイの製造業界全体をみると、収入は減少し、状況は良くないと思います。その他、観光業界は新型コロナウイルスの影響により最悪な状況にあります。ホテルや飲食店は通常営業ができないため、コロナ禍の現状にあわせて変化し、生き残るために他の手段を考えなくてはなりません。現在、物流が停滞しつつあり、通常より配送に時間がかかるため、集荷場所に長時間保管された小包や食品がダメージを受けてしまうという問題が発生しています。しかしながら、パッケージ業界や自動車産業の見通しは明るいと思います。なぜなら、昨年度、タイは新型コロナウイルスの抑え込みに成功し、海外からのオーダーが増加しているからです。農業界は今後も安定しているのではないのでしょうか。タイ農産物の需要は引き続きあると思います。

### 10. 新型コロナウイルスのビジネスへの影響と現在実施している対処方法、また収束後の製造業の方向性やビジネスチャンスについてご意見をお聞かせください。

新型コロナウイルス感染を防ぐための知識を従業員に提供しています。ワクチン接種のためのキャンペーンを行い、従業員がワクチン接種できる会場を探すのを手伝っています。当初、ワクチン接種を希望する従業員は40%しかいませんでしたが、ワクチン接種の重要性を従業員に説明した結果、現在では工場で働く従業員の90%がワクチン接種を完了しました。その他に、マスクやアルコールジェルを従業員に配布しています。また、従業員同士の距離を確保する、従業員を2つのグループにわけるといった予防策を講じています。

これまでに従業員のコロナウィルスの検査を2回行い、従業員が感染しているケースもありましたが、工場内でのクラスターはまだ発生していません。

従業員が感染した場合、食事の配達や病院を探しをサポートするといった社内方針を設けています。

### 11. 日本企業とタイ企業が参加するビジネスマッチング、交流会、展示会などに関心がありますか。

ビジネスマッチングに関心があります。一年に一度、東京と大阪で開催されるM-Techというビジネス展示会があり、毎年、東京で参加しています。またタイ国内でもビジネスイベントに参加しています。今年はSubcon Thailand 2021のヴァーチャル展示会に参加予定です。

もし、目指している将来像が同じ方向の企業と商談ができれば、一緒にビジネスを行える可能性は非常に高いと思います。とりわけ、弊社はまだトレーディング部門が無いので、まずはこの分野で交渉したいですね。企業の強みと弱み、そして企業価値を共有できればと思います。タイミングや交渉内容にもよりますが、弊社は交渉の扉を大きく開いています。

### 12. 将来的に製品の海外輸出の割合を増加させる方針はありますか。

現在、展示会などでブースの設置に重点を置いています。しかしながら、現状は業務量がかかなりあるので、まずは製品の品質やコストの低減など社内管理に注力し、その後、海外の市場開拓を目指したいと思います。いずれにしろ、ビジネスが将来にわたって成長し続けられるよう、海外展開を進めることは確実だと思います。

### 13. 最後に、島根県の製造業者に向けて PR をお願い致します。

弊社は、自動車業界、家具、農業機器、機械修理、建設業で使用されている、多種多様な工業用ファスナーの製造に熟練しています。弊社製品は「ISO 9001」と「TS16949」の規格で生産されているのに加え、40年以上の事業経験があるので、皆様には弊社の製品とサービスの品質を信頼いただきたいと思います。クライアントの様々なリクエストに応えるため、現在に至るまで、常に学び続け、生産技術の発展、そして革新的な製品の開発を続けています。



**【企業概要】**

**企業名** : THAI MONGKOL FASTENERS CO., LTD.

**住所** : 69 Moo 2 Soi Rattanatane, Bangna-Trad Road, Rachatheva, Bangplee,  
Samutprakarn, 10540, Thailand

**Tel** : (+66)2-316-6336-7, (+66)2-316-6339-40

**Fax** : (+66)2-316-9690

**Email** : thaimongkol@gmail.com

**URL** : <https://www.thaimongkol.com>

### □ ■ ニューノーマル流でタイ仏教徒がお説法を聞く ■ □

こんにちは。島根ビジネスサポートオフィスのタイ人スタッフ、アイです。

皆様ご存知の通り、タイは敬虔な仏教国であり、仏教寺院にはお祈りや説法のために多くのタイ人が訪れます。しかし、世界的なコロナウイルスの感染拡大により、現在のタイでは、外出や大人数での集まりなどといった活動に制限がかけられており、寺院へのお参りももちろん規制の対象となっています。

今回は、そんな状況下で新たに生まれた、タイ仏教におけるニューノーマルについてご紹介いたします。

9月初めに、バンコクにあるソイトン寺の高僧、プライワン・ワラワンノ氏とソンポンタラプット氏という、タイで有名な2人のお坊さんが、説法をFacebookでライブ配信をしたことに端を発します。その日に行われたライブ説法は、500万回以上再生をされており、40万以上のコメントや「いいね」を受けており、非常に大きな反響を呼びました。



左側：ソンポンタラプット僧侶、右側：プライワン・ワラワンノ僧侶

出典：<https://www.facebook.com/paivan01>

2021年9月

タイにおいて、仏教信者の数は非常に多く、2018年の13歳以上を対象にした調査によると、タイの仏教信者の割合は93.46%となりました。仏教信者は日常的に近所の寺院へ足を運びます。ところが、冒頭の通り、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、仏教徒の方たちは今までのように寺院に参拝行くことができなくなってしまいました。

このため、コロナウイルス感染拡大以降、複数の有名な僧侶がYoutubeやテレビ放送を通して説法を行ってきました。コロナと共存していくwithコロナ、ニューノーマルへと日常生活が移行していますが、宗教にも同様に変化の波が押し寄せており、タイの僧侶たち時代の変化の波に乗ろうとしています。

### **【オンライン説法の反響の秘密は？】**



出典：<https://www.facebook.com/paivan01>

コロナウイルスの感染拡大後、幾度も行われてきたオンラインでの説法ですが、ではなぜ、今回取り上げた2人の高僧が、今までにない大きな反響を読んだのでしょうか。1つの大きな要因に、配信を行った2人の人柄が挙げられます。2人は程よいユーモアを交えながら説法を行い、また、チャット機能などを活用し視聴者と会話をすることで、普段よりもくだけた雰囲気行われたことが大きな成功につながりました。

プライワン氏がライブ配信中に、LGBTコミュニティの視聴者と会話を交わした際に、LGBTコミュニティだけで用いられるスラングを使ったジョークを飛ばしたこと、そのユーモアも非常に話題となりました。タイのLGBTコミュニティは非常に大きく、広く大衆を魅了する結果となりました。

### 【ニューノーマルに対する反対の声】

多くの好意的な意見があがる一方で、このオンラインで行われる説法のライブ配信を反対する声も上がっています。主な反対意見としては、僧侶が大衆の前で冗談を言うのは、仏教の礼儀と厳しい習慣に反している、考え方に基づくものになります。敬虔な仏教徒の方の中には、今回の親しみやすい、くだけた雰囲気の中で行われたオンライン説法が、仏教の尊厳を軽視するものだ、と捉えた方もいたようです。

### 【最後に】

当社の予測よりも収束に時間を要しているコロナ禍の中、経済復興のためにもコロナと共存する道が世界各国で模索されています。

今回のタイの仏教におけるニューノーマルですが、新たな試みには賛成と反対の両論がついて回るものです。ソーシャルディスタンスが叫ばれる世の中ですが、オンラインを通してコミュニケーションを取ることが可能な説法のライブ配信は、より仏教と信者の距離を縮め、親しみやすいものにするきっかけとなるのではないのでしょうか。



出典 : <https://www.instagram.com/forphonee/>

2021年9月

※別紙に、年内に開催予定のタイ・インドネシア・ベトナムの展示会情報をまとめました。

サポートオフィスでは、現地で開催される展示会へのアテンドも行っております。

関心のある展示会がございましたら、お気軽にご連絡ください。

担当 ; 神谷 靖子 Yasuko Kamiya
Address : 1 VASU1 Building, 12 FL., Room 1202/D, Soi Sukhumvit 25, Sukhumvit Rd., Klongtoey-Nua, Wattana, Bangkok 10110
Tel : +66-(0)-2-261-1058
Mobile : +66-(0)-89-200-7763
Mail : <a href="mailto:shimane-bizsup@aapth.com">shimane-bizsup@aapth.com</a>

▶ タイ経済指標

項目	単位	2018	2019	2020	2021
GDP 成長率	前年比 (%)	4.2	2.4	-6.2	2.5 (1~6月)
人口*	千人	67,869	68,021	68,152	68,161 (1月)
労働者の数*	千人	38,353	38,207	39,451	38,778 (6月)
失業率**	%	1.06	0.99	1.62	1.93 (6月)
最低賃金* バンコク	バーツ/日	325	325	331	331
チョンブリー		330	330	336	336
アユタヤー		320	320	325	325
ラヨーン		330	330	335	335
賃金：全国製造業の平均	バーツ	12,831	13,131	13,562	13,469 (6月)
インフレ率**	前年比 (%)	1.06	0.71	-0.84	0.74 (8月)
中央銀行政策金利*	%	1.75	1.25	0.50	0.50 (9月)
普通貯金率**	%	0.47	0.47	0.31	0.25 (9月)
ローン金利(MLR) **	%	6.32	6.29	5.60	5.42 (9月)
SET 指数*	1975年：100	1,563.8	1,579.84	1,449.35	1605.68 (9月)
バーツ/100円**	バーツ	29.26	28.48	29.33	29.07 (9月)
バーツ/米ドル**	バーツ	32.31	31.05	31.29	31.51 (9月)
円/米ドル**	円	110.4	109	106.8	108.5 (9月)
車販売台数 (1月からの累計)	台数	1,041,311	1,019,602	779,857	486,268 (8月)
BOI 認可プロジェクト	件数	1,469	1,500	1,501	801 (1~6月)
BOI 認可プロジェクト金額	10億バーツ	549.48	447.36	361.41	263.84 (1~6月)

\*期末、\*\*平均